

列車とトイレ - 日本の列車トイレの変遷

NPO 21 世紀水倶楽部

清水 洽

クボタ環境サービス(株)

1) はじめに

満員の通勤電車、突然発生するトイレへの欲望。冷や汗がたらたらと流れ、周囲がだんだん暗くなり、周期がだんだん短くなる。西武新宿線高田馬場駅に到着、いそげトイレに、2,3人が同じ様に青い顔をし、ぐったりと壁にもたれて並んでいる。



写真 1. 西武新宿線新所沢駅を発車した
3000系通勤電車 06.4



写真 3a. 西武新宿線入曾 新宿に行く
レッドアロー(トイレ常備)
06.4



写真 3 b. 小田急小田原線町田駅を通過
するスーパーはこね
(トイレ常備) 06.1.19

やむなく地下鉄に乗り、次駅のトイレに飛び込み開放感を味わう。サラリーマンなら1度や2度は経験があるでしょう。特に前日飲んだ日は要注意です。私の場合体験から、通勤に使う地下鉄駅のトイレの位置はいつも把握していました。このように私にとって重要な列車のトイレは、JR山手線や私鉄各線、地下鉄線の通勤電車には常備されておら

ず、駅の設備で対応しています。一方JR

の中距離快速通勤電車(東海道線、高崎線、宇都宮線、常磐線、総武線等)は基本的に先

頭車と最後尾車近くにト

イレが常備されています。

首都圏の私鉄では特急車両以外にはトイレは常備されていないと思います。満員電車の中で、トイレにたどり着くのは不可能でしょう。

(東武 6050 系、西武 4000 系は長距離用としてトイレをもっています。)

学生時代に鉄道の写真を撮っていたころは、レールの側

では列車が通過する時、最も注意が必要でした。昭和 38 年ごろの列車のトイレは垂れ流し



写真 2 a. 東海道本線由井で
の中距離通勤電車と
富士山(トイレなし)
06.1.19



写真 2 b. 東海道本線金谷駅 島田を行
くトイレ常備の通勤電車
06.1.19

のため、油断をすると汚物をまともに浴びることになります。当時、先輩に「レールの側での撮影は危険であるから近寄るな
では無く、汚物を浴びるからレールの側での撮影は禁止だ」と
言われたものです。

当時、新幹線が開通する前の、東海道本線では小田原 藤沢間
での黄害は有名な話でした。九州、大阪からの夜行列車が横浜
駅や東京駅に朝 7:00 - 9:00 頃に到着するため、列車の乗客
たちはちょうど小田原 藤沢間で目を覚ましトイレに向かう。
当時 11 ~ 14 両編成の夜行列車約 10 ~ 14 本がこの間
を通過する。寝台車の定員を 1 両 40 名として、半数がトイレに
行くとすると 20 名 × 11 両 × 10 本 = 2200 人分の汚物が毎日こ

の間に投棄されたのです。

鉄道ファンの私は列車のトイレに興味を持ち、鉄キチ達にもお願いし「鉄
道ピクトリア」をはじめとした文献を

集めました。そこで、「列車とトイレ」と題して、列車トイレの
歴史、日本の現状や処理法また、海外での列車トイレの状況等を
報告していきたいと思います。



写真 4b. 山陰本線嵯峨駅 保津峡を行く下り列車(撮影も汚物も
最も危険な場所) 70.5.17



写真 4a. 鹿児島本線久留米駅
を通過する寝台特急
はやぶさ(汚物を浴び
る危険な撮影)
61.7.27



写真 5b. 東海道本線関が原を行く東京行き臨時
急行ながさき・させば 70.5.6



写真 5a. 東海道本線関が原を行く東京行き寝
台急行阿蘇 70.5.6